

都立立川短大 酒井 豊子
○志倉 弘子

1. メリヤス製品の寿命が、布地自体の破損によるよりも型くずれによるところが大きいことにかんがみ、型くずれの実態とその原因を追求しようとした。

2. 今回は肌着について、日常頻繁に遭遇し、かつまた型くずれの主要な機会と考えられる洗たくによる型くずれの様子を調べ、それと布地の性能との関係について検討した。

3. いずれの試料も、洗たくによりタテ方向がちじみ、ヨコ方向が伸びる。この傾向はもめん製品の場合に特にいちじるしく、アクリル混紡地ではやや小さい。これは、メリヤス地の仕上時に、タテ方向に大きな張力がかけられているためと考えられ、合せん混紡の場合は、仕上時のヒートセット効果が残存するためと思われる。洗たく後の乾燥の際にタテ方向に重力のかかるように吊して行なえば、多少の防止効果はあるが、根本的な防止策とはならない。